

学校教育目標	○しっかり考える子(問題解決力) ○心やさしい子(人間関係形成力) ○つよく元気な子(体力・活力)	【目指す学校像】	○児童にとって充実した学校 ○保護者にとって信頼できる学校 ○教職員にとって働きがいのある学校
		【目指す児童・生徒像】	○思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども○感性あふれる豊かな心をもつ子ども ○すずんで心と体を鍛えることができる子ども
		【目指す教師像】	○ありのままの児童を受け止め、個性を發揮させる教師 ○授業で勝負できる教師 ○家庭・地域との相互理解を深め協働できる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	取組の進捗状況	今後の方向性
確かな学力	○基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに主体的・対話的で深い学びによる授業改善を目指す。	○算数科を中心とした授業調査を実施し、3つの資質能力の育成を図る。	○算数科に対するアンケート調査を行い、学ぶ意欲の調査を行う。	4 全教員がアンケートを実施した。	4	4 アンケート調査で70%以上の児童が肯定的な回答をしている。	3	今年度の校内研究を算数科で進めている。年度初めに実態調査をとり、算数科に対する子供たちの意欲について全校でアンケート調査を実施。そこから各学年の実態を分析し、今年度の研究や算数における授業改善に活用している。	東京都や全国の学力調査の結果の分析と考察を共有し、授業改善推進プランを生かし、授業改善と学力向上につながる具体策を検討したい。
				3 80%～100%未満の教員がアンケートを実施した。		3 アンケート調査で70%未満～60%の児童が肯定的な回答をしている。			
				2 70%～80%未満の教員がアンケートを実施した。		2 アンケート調査で60%未満～50%の児童が肯定的な回答をしている。			
豊かな心	○人権意識を高め、自他ともに大切にすることを態度を育成する。	○道徳科を道徳教育の要の時間と位置付け、教科横断的な視点で各教科にて、計画的に指導し、道徳教育の一層の充実を図る。	○学校司書が中心となり、ボランティアや委員会の読書等と連携し、子供たちの読書活動の推進を図る。	4 全教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	4	4 90%以上の児童が自己肯定感があると感じている。	3	1学期のアンケート実施後の数値は平均して8割程度の児童が「自己肯定感がある」と答えていた。月2回、生活指導会議等で各学年ごとに結果をもとに分析をし、トラブルの未然防止や生活改善に向けて情報共有を進めている。	引き続き、教員が児童の変化に気付くアンテナを高くもち、丁寧な言葉掛けを行うことで、児童が安心して生活できるように努める。
				3 80%～100%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。		3 80%以上の児童が自己肯定感があると感じている。			
				2 70%～80%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。		2 60%以上の児童が自己肯定感があると感じている。			
健やかな体	○健康への関心を高め、基礎的な体力の育成と向上を図る。	○規則正しい生活と健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。	○生活指導・保健指導・学級活動の充実を図り、計画的な指導を行う。	4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った。	4	4 95%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。	未	道徳授業地区公開講座に向け、実態調査や意識調査を2学期末に実施する予定である。各教科との関連を意識して道徳教育を行った教員の調査や道徳の授業の振り返りについても2学期末の調査に向け、職員に声掛けをしている。	道徳授業地区公開講座前に、道徳教育年間計画をもとに全教員で他教科との関連について確認する時間をもち、意識向上を図る。
				3 80%～100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。		3 85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。			
				2 70%～80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。		2 80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た。			
輝く未来	○子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○入学時は「スタートカリキュラム」を実施し、学年始めにはなりたい自分をめざす「キャリアアルバム」を作成する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が計画を活用した指導を行った。	4	4 調査結果が昨年比平均ポイントから+2ポイント以上	未	年間指導計画を活用した指導が実施できた教員は約85%だった。児童の体力・運動能力向上と運動の習慣化を目指して、全校で同じ運動に取り組む週間に取り組んでいる。今後、体力テストの調査結果をもとに分析・評価する。	体力向上部を中心に、年間指導計画と年間運動に取り組む週間に取り組んでいる。今後、体力テストの調査結果をもとに分析・評価する。
				3 80%～100%未満の教員が計画を活用した指導を行った。		3 調査結果が昨年比+2ポイント			
				2 70%～80%未満の教員が計画を活用した指導を行った。		2 調査結果が昨年比-2ポイント以内			
輝く未来	○子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○入学時は「スタートカリキュラム」を実施し、学年始めにはなりたい自分をめざす「キャリアアルバム」を作成する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が計画を活用した指導を行った。	4	4 90%以上の児童が目標を達成している	未	生活指導については生活指導主任を中心として学期始めと学期終わりに全校に向けての安全指導を実施。また、年間計画に位置付けられた指導項目を全学級で指導している。保健指導では、身体計測の際に養護教諭が保健に関する指導を全学級で行っている。	グッドモーニング60の取組をきっかけに日頃からの生活習慣や排他習慣などに付く児童だけでなく全教員にもその重要性を発信していく。
				3 80%～100%未満の教員が計画を活用した指導を行った。		3 80%～90%未満の児童が目標を達成している			
				2 70%～80%未満の教員が計画を活用した指導を行った。		2 70%～80%未満の児童が目標を達成している			
輝く未来	○子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○入学時は「スタートカリキュラム」を実施し、学年始めにはなりたい自分をめざす「キャリアアルバム」を作成する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った。	4	4 90%以上の児童が目標を達成している	未	食育計画を活用した指導を行っている教員は約80%だった。年3回のお弁当の日(食育の日)だけでなく、学期に1度程度給食に関する動画を視聴することで食に対する意識を高めようとしている。	食育のめあてに対する達成度は、まだ図れていない。2・3学期のお弁当の日に対する児童のめあて達成度で成果を検証する。
				3 80%～100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。		3 80%～90%未満の児童が目標を達成している			
				2 70%～80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。		2 70%～80%未満の児童が目標を達成している			
輝く未来	○子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○入学時は「スタートカリキュラム」を実施し、学年始めにはなりたい自分をめざす「キャリアアルバム」を作成する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った。	4	4 90%以上の児童が目標を達成している	未	各学年のセーフティ教室をはじめ、3年生では梨の出前授業や花いっぱい運動、5年生では気象に関する出前授業を実施したり、6年生では伝統芸能や人権教育の出前授業を計画したりしている。各学年の発達段階や授業内容に関連する授業等を取り入れている。	つつが丘小学校と瑞雲中学校との連携を密にし、小中一貫した取り組み方やキャリアアルバムのねらいについての情報共有を進めていく。
				3 80%～100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。		3 80%～90%未満の児童が目標を達成している			
				2 70%～80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。		2 70%～80%未満の児童が目標を達成している			
輝く未来	○子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○入学時は「スタートカリキュラム」を実施し、学年始めにはなりたい自分をめざす「キャリアアルバム」を作成する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った。	4	4 80%以上の保護者が教育活動への理解を示している。	未	学校長が中心となり、行事に加え、ふだんの授業の様子や休み時間の様子について毎週定期的にホームページを更新し、保護者や地域に向けて情報を発信している。	保護者の教育活動への理解度は、2学期末に実施する市のアンケートの結果をもとに図る。
				3 80%～100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。		3 50%以上の保護者が教育活動への理解を示している。			
				2 70%～80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った。		2 20%以上の保護者が教育活動への理解を示している。			